まちのできごと

体育会柔道部　結果報告

①第16回高知県中学校柔道春季大会
場所：高知県立武道
日時：4月27日（土）

≪結　果≫

【団体戦】
・女子団体：第3位
（秋山愛音・秋山苺華・山中優希）

【個人戦】
・女子個人63kg級 第3位：秋山苺華
・女子個人70kg超級 準優勝：山中優希

②県スポーツ少年団春季交流大会
場所：高知県立武道館
日時：4月29日（月）

≪結　果≫

【個人戦】
・小学2年 第3位：山崎永夢
・ライオンズ賞：今井蓮人
・フェアプレー賞：今井樺乃

③2019年日本ベテランズ柔道大会
場所：福井県立武道館
日時：5月19日（日）

≪結　果≫

【個人戦】
・M3（40～44歳）66kg級 ベスト4：西山安修
・M3（40～44歳）73kg級：ベスト16：小川智也

大豊町中学校外部指導者　林 利生太さんより

新入生を加えての初めての大会。チーム一丸となって頑張りました。選手一人一人、またチーム全体としてもたくさん課題が見つかりました。このメンバーで柔道ができる時間を大切にし、最後の大会で『頑張ってきてよかった！』と思えるように、コーチも選手も全力で練習に取り組んでいこうと思います！応援よろしくお願いします。

町内4つ目の集活センター「あなない」

5月25日、穴内地区で集落活動センターの運営母体となる穴内地区活性化推進委員会が設立され、併せて「集落活動センターあなない」が穴内公民館に開所しました。「あなない出愛（であい）のひろば」というキャッチコピーも決められ、これから農産物や加工品などを扱う直販所を開く活動をするそうです。「まずは、7月に穴内部消防屯所横の広場で試験販売を行い、本格的な販売体制を構築したい」と同委員会会長　松岡幸博さんは話していました。

三山ひろしさん　来町

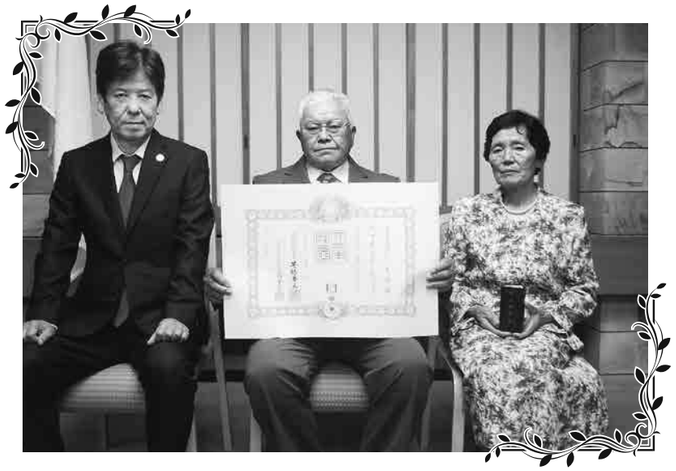
5月27日、南国市出身で「ビタミン・ボイス」で知られる歌手 三山ひろしさんが、新曲「杉の大杉」のプロモーション撮影のために本町を訪れました。撮影は、まさに杉の大杉周辺で行われたそうです。この日は大豊町役場にも寄っていただき、町長と記念撮影も行いました。

旭日単光章受章!

5月20日、県庁で勲章の伝達式が行われ、永森宗雄さん（野々屋）が高齢者叙勲（旭日単光章）を受章されました。

永森さんは、昭和58年3月に大豊町議会議員に初当選されてから平成15年3月までの通算3期12年余にわたり、議会活動を通じて献身的に町勢の充実、発展に努められました。

これからもその人柄と識見で地域を引っ張っていただき、お体に気を付けてお過ごしください。おめでとうございます。



町外からの目

大豊町からの移住第2世代であり、横浜市に住む中学生が、大豊町への想いを作文に綴ったところ、市の作文コンクールで受賞されたそうです。皆さんもご覧ください。

すばらしい町をなくさないために

高田中　富本　崇正

「少子高齢化。」これは、今の日本が解決しなければならない大きな問題だと僕は思う。

現在の日本は人口が2011年から減少している。出生率が減少する一方で平均寿命は延び高齢者の割合が高まっているのだ。国をあげて対策に乗り出しているが、問題解決の糸口をつかむことができていない。

地方には少子高齢化という問題の影響を大きく受けてしまっている町がたくさんある。そのような町のことを「限界集落」という。限界集落とは、過疎化などで人口の50％以上が65歳以上の高齢者になり、冠婚葬祭などを含む社会的共同生活や集落の維持が困難になりつつある集落のことをいう。その限界集落の第1号が僕の祖父の故郷高知県長岡郡にある大豊町である。

僕は大豊町に何度も行っている。大豊町は緑が多く、空気が美味しくて夜の星座もきれいだ。最近は「ゆとりすとパーク」というテーマパークができたり、吉野川を活用するラフティングが盛んになったりとレジャースポットも多くなってきている。そんな大豊町が限界集落の第1号と聞いたとき僕はとても驚いた。ただ確かに1955年には22,000人以上の人口があったが、今は3,700人という数にまで減ってしまっている。

現在「限界集落」と呼ばれる集落は全国に15,000以上もある。毎年限界集落は増えており、少子高齢化に歯止めがかからない状況だ。

そんな中で独自の取り組みで出生率をアップさせている町がある。福島県矢祭町がその町だ。矢祭町は人口5,900人の小さな町だが毎年国内の出生率を上回っている。この町がここまでになったのは様々な政策が上手くいったからである。徹底した行政改革、誕生や結婚の祝い金制度の導入、保育料の負担軽減など子育て支援のために身を切る改革を行っている。この独自の政策により若い世代の産みづらさ、育てづらさを解消することができたのだ。

祖父の故郷大豊町もこれまで色々な取り組みを行ってきたがなかなか上手くいっていないのが現状だ。大豊町のゆとりすとパークで出会ったスタッフの人によると昨年も100人人口が減ったらしい。

限界集落が再生するためには、とにかく子どもや若い家族を町に増やしていくことが大切だと僕は思う。急に人口を増やすのは難しい。でも、1年に1世帯だけでも移住者が来れば町は復活していくらしい。

そのためには、大豊町の良さである自然をたくさんの人に知ってもらうことをすればいいと思う。町に人を呼ぶためにはまず、町がどんなところなのか、どんないい所があるのかということを知ってもらう必要がある。だから大豊町の魅力を知ってもらえるような取り組みを行い一度大豊町を訪れてもらう機会を作ることが大切だと僕は考える。

大豊町のようなすばらしい町が消滅してしまうのはすごく悲しい。だからこそ僕はこれからも少子高齢化という問題について考えていきたいと思う。